

平成26年度 事業報告書

平成27年6月

地方独立行政法人長崎市立病院機構

目 次

I 法人の概要

1	名称	1
2	所在地	1
3	設立年月日	1
4	設立目的	1
5	役員の状況	1
6	職員数	1
7	組織図	1
8	設置及び運営を行う病院等	2
9	新市立病院（全面開院時）の概要	3
10	理念等	4

II 事業報告

1	法人の総括・重点施策・課題	5
2	年度計画における大項目ごとの概要	6
3	目標値の達成状況	9

I 法人の概要

1 名称

地方独立行政法人長崎市立病院機構

2 所在地

長崎市新地町6番39号

3 設立年月日

平成24年4月1日

4 設立目的

長崎市における医療の提供、医療に関する研究、技術者の研修等の業務を行うことにより、市民の立場に立った質の高い医療を安全かつ安定的に提供し、もって市民の生命及び健康を守ることを目的とする。

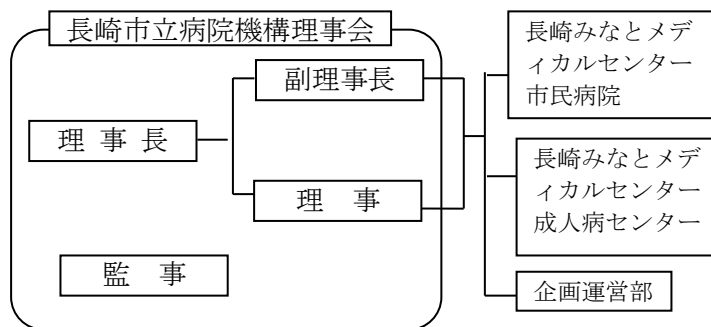
5 役員の状況

(平成27年4月1日現在)

役員	氏名	備考
理事長	兼松 隆之	・地方独立行政法人長崎市立病院機構理事長 兼 長崎みなとメディカルセンター 市民病院院長
副理事長	松本 晃	・カルビー株式会社代表取締役会長兼CEO ・特定非営利活動法人日本から外科医がいなくなることを憂い 行動する会理事長
理事	杉町 圭蔵	・九州大学名誉教授 ・遠賀中間医師会おんが病院・遠賀中間医師会おかがき病院統括院長
	鈴木 伸	・医療法人昭和会恵美須町病院院長 ・前長崎市立市民病院院長
	千葉 憲哉	・医療法人祥仁会 西諫早病院理事長 兼 院長
	田所 正人	・長崎みなとメディカルセンター 成人病センター院長
	野口 静子	・長崎みなとメディカルセンター 市民病院 副院長兼看護部長
	黒川 智夫	・地方独立行政法人長崎市立病院機構 理事
監事	川崎 清廣	・川崎清廣税理士事務所所長
	白石 裕一	・前長崎市上下水道事業管理者

6 職員数 (平成27年4月1日現在)

区分	職員数
長崎みなとメディカルセンター 市民病院	848人
長崎みなとメディカルセンター 成人病センター	144人
合計	992人



7 組織図

右図のとおり

8 設置及び運営を行う病院等

(平成27年4月1日現在)

	長崎みなとメディカルセンター 市民病院	長崎みなとメディカルセンター 成人病センター
所在地	長崎市新地町6番39号	長崎市淵町20番5号
開設年月日	昭和23年12月1日	明治33年12月
院長	兼松 隆之	田所 正人
許可病床数	414床	132床
一般病床	414床(稼働364床)	96床(稼働48床)
結核病床		30床
感染病床		6床
主な役割 及び機能	<ul style="list-style-type: none"> ・二次救急医療輪番制病院 ・地域周産期母子医療センター ・地域医療支援病院 ・地域がん診療連携拠点病院 ・災害拠点病院(地域災害医療センター) ・臨床研修指定病院(医師臨床研修センター) 	<ul style="list-style-type: none"> ・第二種感染症指定医療機関(6床) ・結核病床(30床) ・人工透析 ・救急告示病院
診療科目	33科目 内科、呼吸器内科、心臓血管内科、消化器内科、糖尿病代謝内科、脳神経内科、血液内科、心療内科、精神科、緩和ケア外科、産科・婦人科、新生児小児科、小児科、小児外科、外科、消化器外科、心臓血管外科、呼吸器外科、乳腺・内分泌外科、肛門外科、整形外科、形成外科、脳神経外科、麻酔科、放射線科、皮膚科、泌尿器科、眼科、耳鼻咽喉科、リハビリテーション科、臨床腫瘍科、病理診断科、救急科	9科目 内科、呼吸器内科、消化器内科、循環器内科、心臓血管外科、泌尿器科、放射線科、血液内科、腎臓内科
敷地面積	11,018m ²	12,359m ²
建物規模	I期棟 鉄筋コンクリート造(免震構造) 地上8階 地下2階 マニホール棟 仮設棟 建築面積 3,907.36 m ² 延床面積 31,855.19 m ²	本館 鉄筋コンクリート造 地上5階 地下1階 中央棟 鉄筋コンクリート造 地上3階 南病棟 鉄筋コンクリート造 地上2階 建築面積 5,018.927 m ² 延床面積 12,559.285 m ²

9 新市立病院(全面開院時)の概要

(1) 新市立病院が担う主要な機能(担う領域)

- 救急医療 (ER型救命救急センターの設置、ヘリポートの整備)
- 高度・急性期医療(脳血管疾患医療、心疾患医療、がん医療)
- 小児・周産期医療
- 政策医療 (災害医療、結核医療、感染症医療)

(2) 施設概要

項目	新市立病院 (全面開院後)	長崎みなとメディカル センター 市民病院 (I期棟オープン時)	長崎みなとメディカル センター 成人病センター
病床数	513床	364床	132床(4~6月まで) 84床(7月以降)
敷地面積	11,018 m ²	11,018 m ²	12,359 m ²
病院延べ床面積 (病院機能部分面積)	40,600 m ² (38,700 m ²)	31,855 m ²	10,341 m ²
駐車台数 (延べ床面積)	350台 (9,915 m ²)	8台 他に敷地外に賃貸	60台
年間延べ入院患者数 (一般病床利用率)	160,000人 (86.0%)	112,959人 (85.0%)	14,708人 (67.2%)
年間延べ外来患者数	200,000人	132,980人	27,097人

※ 市民病院・成人病センターの患者数は、平成26年度の実績

※ 市民病院の一般病床利用率は364床で算出

※ 成人病センターの一般病床利用率は4~6月まで96床、7月以降は48床で算出

(3) 整備・運営スケジュール

項目	期日
設計着手(基本設計5ヶ月、実施設計9ヶ月)	平成23年1月
「I期工事の建物」の建設工事着手	平成24年2月
「I期工事の建物」の引渡し、維持管理業務開始	平成26年1月
「I期工事建物」の開院	平成26年2月24日
市民病院建物の解体工事着手	平成26年2月
「II期工事の建物」、「駐車場棟」の建設工事着手	平成26年8月
「駐車場棟」稼働	平成28年2月予定
「II期工事の建物」の引渡し時期	平成28年2月予定
全面開院	平成28年7月予定
維持管理業務(保守管理・清掃・保安・利便施設運営)期間終了	平成43年3月末

10 理念等

【長崎市立病院機構】

われらが思い	患者さんとそのご家族から、職員とその家族から、そして地域から信頼され、愛される病院となります。
目標にむかって	<ol style="list-style-type: none">1. 思いやりの心もち、安全で質の高い医療を提供します。2. 地域に根ざすとともに、国際的視野をもった病院になります。3. 人間性豊かな医療人を育成し、医療の発展に貢献する研究を行います。4. みずから考え、やりがい、喜び、誇りをもてる環境を創ります。

Ⅱ 事業報告

1 法人の総括・重点施策・課題

平成 24 年 4 月 1 日、長崎市の組織から独立し、地方独立行政法人長崎市立病院機構を設置した。移行初年度である平成 24 年度は、理事会の設置や人員体制の整備など法人の基礎となる運営体制の確立や新病院建設計画を着実に進め、平成 25 年度は I 期棟開院に向け、医療機能強化を図るとともに、新市立病院の機能・魅力を市民、地域の医療機関へ広く知ってもらうための活動にも力を入れた。そして、平成 26 年 2 月に無事に移転を行い、開院することができた。平成 26 年度は更なる診療機能の充実を図るとともに全面開院に向けての取り組みを進めた。

診療機能の充実として、救急医療については、救急看護体制を強化するとともに、これまでの心臓血管ホットラインに加え、脳神経ホットラインを開設するなど体制を強化した。高度急性期医療については、心臓血管外科及び脳神経外科の診療を本格稼働し、3 大疾病への対応を充実することができた。さらに、ハイケアユニット（HCU）を設置し、術後及び重症患者に対応する体制を整えた。また、がん治療に関しては、チーム医療の充実を図り、化学療法の効果的で安全な実施につなげるとともに、高精度定位放射線治療のサイバーナイフを本格稼働した。小児周産期医療については、NICU を担当する医師が 1 名退職し、32 週未満の新生児の診療が困難となったが、12 月には新たに採用した医師により、受け入れ再開の体制整備を進めており、32 週以上の新生児が主ではあるが、NICU 及び GCU での受け入れ数は、平成 25 年度を上回った。また、診療の充実だけでなく高度化・多様化する医療に対する安全対策を強化するため、患者参加型の医療安全（speak up「声に出しましょう」）も推進し、安全安心な医療の提供に努めた。

情報発信にも積極的に取り組み、ホームページや広報誌などの媒体による情報発信だけでなく、市立図書館や公民館等での健康講座や市民公開講座なども行った。また、新市立病院の PR のためメディアを通じた広報活動も行った。

病院全体で目標達成に向けて取り組むために、人事評価を含めた業務改善制度として導入している「Work Editing Service」を見直し、所属ごとの目標を一般職員の個人評価にも反映させるなどの仕組みとし、良質な医療・患者サービスの提供と自主的な業務改善を促進した。

経営面では、診療科別損益計算書の作成を行い、各診療科の収支状況を医師をはじめとした各スタッフに周知、共有し、経営に対する意識向上を図るとともに、平均在院日数の短縮や新たな診療報酬施設基準の届出、紹介患者増への取り組み、外来検査の促進やジェネリック医薬品への切り替え、価格交渉の徹底、委託契約の見直しなどを行い、収入増と経費削減に努めた。しかしながら、経常損益では両病院で合わせて 845,490 千円の赤字で、内訳として市民病院で 563,143 千円、成人病センターで 282,347 千円の赤字となり、持続可能な経営基盤の確立を重要課題と考え、更なる増収対策と経費削減に努めている。

新市立病院の全面開院に向けては、土壌汚染の処理により、当初計画からは 2 か月遅れることになるが、平成 28 年 7 月の全面開院の目途をつけることができた。

今後も医療機能の充実を図り患者の気持ちに寄り添った医療を提供しながら、地域に信頼され愛される病院となるための努力を続けていく。

2 年度計画における大項目ごとの概要

第1 住民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する目標を達成するためとるべき措置

○救急医療

救急医療については、救急外来担当の師長を新たに配置するとともに専任看護師を増員し、救急看護体制を強化した。そして、これまでの心臓血管ホットラインに加え、脳神経ホットラインを開設するなど救急医療体制を強化し、市民病院への救急搬送件数は大きく増加した。

また、救急専門医養成施設として申請し、平成27年1月1日より指定施設となることができた。

○高度・急性期医療

高度急性期医療については、心臓血管外科及び脳神経外科の診療を本格的に開始し、これまでの心臓血管ホットラインに加え脳神経ホットラインを開設するなど、3大疾病への対応を充実させることができた。また、がん治療に関しては、がん薬物療法専門医を中心にがん専門薬剤師、がん化学療法認定看護師などによるチーム医療の充実を図り、化学療法を効果的で安全に実施するとともに、放射線治療に関しては新病院開院時に導入したサイバーナイフを本格稼働した。

さらに、これまでのCCU、NICU、GCUに加えハイケアユニット（HCU）の施設基準の届出を行い、術後や重症患者へ手厚い看護を行なえる体制を整えた。

○小児・周産期医療

小児・周産期医療については、NICUを担当する医師が1名退職し、32週未満の新生児の診療が困難となったが、12月には新たに採用した医師により、受け入れ再開の体制整備を進めている。また、32週以上の新生児が主ではあるが、NICU及びGCUでの受け入れ数は、平成25年度を上回った。

周産期母子医療センターと地域医療機関を結ぶ周産期医療情報ネットワークが稼働を開始し、地域の産科クリニックからの迅速な情報収集が可能となり、ハイリスク分娩などがさらに円滑に受け入れることが可能となった。

○地域の医療機関との連携強化

当院への紹介・逆紹介状況について医療機関別や地域別に分析し、紹介が少ない地域の医療機関への訪問を強化し連携促進を図った。また、今後さらに“顔の見える病院”となるために、地域の医療機関を対象に、「ざっくばらんにご意見をうかがう会」を開催した。約80名の参加者に対し、当院医師の講演や地域医療機関医師の講演、意見交換会などを行い、地域医療機関との連携の充実を図った。

○安全安心で信頼できる医療の提供

I期棟開院時に導入したグループウェアの掲示板機能や文書管理機能を活用し、情報の周知、各種マニュアルの保管など情報の一元管理を進め、最新情報をいつでも全職員が確認できる環境整備を進めた。

チーム医療として、栄養サポートチーム、緩和ケアチーム、感染対策チーム、褥瘡対策チーム、糖尿病チームの5チームそれぞれに認定看護師を配置するなど専門的な活動を行い、多職種の連携により、医療の質向上に努めている。

医療安全対策を強化するため、全職員の医療安全研修の参加率向上に取り組み、また、患者参加型の医療安全（speak up「声に出しましょう」）も推進し、安全安心な医療の提供に努めた。

○住民・患者サービス

クリティカルパス委員会を中心にパス数の増加やパス使用率向上に向けた取り組みを行った結果、パス数、パス使用率とも前年度を上回る結果となり、医療の効率化とともに患者と医療者の情報共有の強化にもつながった。

患者アンケートやご意見箱に寄せられた意見は、ぬくもり委員会で検証し対応を進めるとともに、院内掲示板を通じて回答を行うなどサービス向上に努めた。

情報発信にも積極的に取り組み、ホームページや広報誌などの媒体による情報発信だけでなく、市立図書館や公民館等での健康講座や市民公開講座なども行った。また、新市立病院のPRのためメディアを通じた広報活動も行った。

医療の質向上と患者サービス向上を目的とした病院機能評価の認定も指摘事項なしで更新することができた。

○適正配置と人材評価

心臓血管外科、脳神経外科の本格稼働や眼科の再開、血液内科医師の常勤配置を行うなど医療機能の強化を進めた。また、救急専任看護師の増員や、術後や重症患者を対象とするハイケアユニットの体制を整備するとともに、7対1看護体制も維持している。

人事評価を含めた業務改善制度として導入している「Work Editing Service」を試行段階の反省を踏まえ見直し、病院全体で目標達成に取り組むために、所属ごとの目標を一般職員の個人評価にも一部反映させるなど、良質な医療・患者サービスの提供と自主的な業務改善を促進した。

第2 業務運営の改善及び効率化に関する目標を達成するためとるべき措置

○組織体制の充実・連携強化(業務評価の推進、事務部門のレベルアップ)

人事評価を含めた業務改善制度「Work Editing Service」により、職員の業務改善意識を促進するとともに、院長コミットメント、部門長コミットメントに基づき所属長が目標設定を行うなど、目標達成に対する意識向上を促した。

事務部門のレベルアップとして、管理職経験者、医事経験者、人事経験者、経理経験者など即戦力となる人材を採用し事務部内の強化を図ることとした。

○業務の見直しによる収支改善

経営分析の手法として、診療科別損益計算書の作成を行い、各診療科の収支状況を各診療科医師にも周知、共有し、経営に対する意識向上を進めている。

また、診療情報管理士の人員体制強化をはかり、DPCコードチェックや、レセプトチェックを強化するとともに保険診療審査委員会を立ち上げ、医師、診療情報管理士を中心に算定漏れ防止や査定減に取り組んでいる。

第3 財務内容の改善に関する目標を達成するためとるべき措置

○持続可能な経営基盤の確立

心疾患、脳血管疾患などに対する医療機能の充実や眼科の再開、ハイケアユニットの新設などとともに、平均在院日数の短縮や新たな診療報酬施設基準の届出、地域医療機関訪問等による紹介患者増への取り組みとともに、外来検査の促進やジェネリック医薬品への切り替え、価格交渉の徹底、

委託契約の見直しなどを行い、収入増と経費削減に努めた。

しかしながら、経常損益では両病院で合わせて 845,490 千円の赤字で、内訳として市民病院で 563,143 千円、成人病センターで 282,347 千円の赤字となった。

第 4 その他業務運営に関する重要事項を達成するためとるべき措置

○長崎市新市立病院整備運営事業に関する取り組み

救急体制の人員体制強化や、心臓血管外科、脳神経外科の本格稼働など、新市立病院が担う救急医療、高度急性期医療の充実を図ることができた。

また、土壌汚染の処理により当初計画からは 2 か月遅れることになるが、平成 28 年 7 月の全面開院の目途をつけることができた。

PFI 事業者と連携し、全面開院に向け、今後も共同して事業の推進に取り組んでいく。

3 目標値の達成状況

(1) 医業活動

項 目	長崎みなとメディカルセンター 市民病院				長崎みなとメディカルセンター 成人病センター			
	25年度 実績値	26年度 目標値	26年度 実績値	達成率 (%)	25年度 実績値	26年度 目標値	26年度 実績値	達成率 (%)
救急搬送人数(人)(暦年)	2,695	2,600	3,127	120.3	223	200	170	85.0
手術件数(件)	2,103	2,600	2,649	101.9	98	200	95	47.5
紹介率(%)	41.2	53.0	45.8	86.4	54.6	-	50.2	-
逆紹介率(%)	58.5	58.0	60.3	104.0	27.6	-	22.7	-

※紹介率及び逆紹介率市民病院算定式(目標値は小数点以下切り捨て)

$$\text{紹介率(}\%) = \frac{\text{紹介患者数}}{\text{初診患者数}} \times 100 \qquad \text{逆紹介率(}\%) = \frac{\text{逆紹介患者数}}{\text{初診患者数}} \times 100$$

※成人病センターは地域医療支援病院ではないため、紹介率及び逆紹介率の目標値は定めていない。

(2) 住民患者サービス

項 目	長崎みなとメディカルセンター 市民病院				長崎みなとメディカルセンター 成人病センター			
	25年度 実績値	26年度 目標値	26年度 実績値	達成率 (%)	25年度 実績値	26年度 目標値	26年度 実績値	達成率 (%)
クリティカルパス種類	94	140	159	113.6	19	22	22	100.0
患者アンケートによる 満足度の向上(%)	98.7	98.0	98.4	100.4	100.0	98.0	99.2	101.2

(3) 医師数

項 目	25年度 実績値	26年度 目標値	26年度 実績値	達成率 (%)
医師数(人)	84	85	87	102.4

※医師数には、研修医は含まない。

※平成25年度実績値は平成26年3月31日現在(内訳:市民73人、成人11人)

※平成26年度実績値は平成27年3月31日現在(内訳:市民78人、成人9人)

※長崎市第四次総合計画による目標値として、平成28年度92人としている。

(4) 看護体制(市民病院)

項 目	26年度目標値	26年度実績値
7対1看護体制の確立	7対1看護体制の維持	7対1看護体制維持

(5) 患者動向

項 目	長崎みなとメディカルセンター 市民病院				長崎みなとメディカルセンター 成人病センター				
	25年度 実績値	26年度 目標値	26年度 実績値	達成率 (%)	25年度 実績値	26年度 目標値	26年度 実績値	達成率 (%)	
入院 (一般病床)	延べ患者数(人)	107,333	120,105	112,959	94.1	22,436	22,995	14,708	64.0
	1人1日当たり 単価(円)	52,560	59,000	64,442	109.2	40,034	39,627	37,206	93.9
	病床稼働率(%) (病床数)	72.1 (414床)	90.4 (364床)	85.0 (364床)	94.0	64.0 (96床)	65.6 (96床)	67.2	102.4
	平均在院日数 (日)	12.6	14.0	11.0	127.3	17.7	18.5	18.6	99.5
外来	延べ患者数(人)	131,262	146,500	132,980	90.8	29,277	29,706	27,097	91.2
	1人1日当たり 単価(円)	12,688	13,000	13,443	103.4	22,286	22,645	22,334	98.6

入院延べ患者数

(注1) 病床稼働率(%) = $\frac{\text{入院延べ患者数}}{\text{稼働病床数} \times \text{年間入院診療実日数(365日)}} \times 100$

(注2) 平成25年度の長崎みなとメディカルセンター 市民病院の病床稼働率は、414床から人間ドック用6床を除いた408床で算出している。

(注3) 平成26年度の長崎みなとメディカルセンター 市民病院の病床稼働率は、364床で算出している。

(注4) 平成26年度の長崎みなとメディカルセンター 成人病センターの病床稼働率は、4～6月までは96床、7月～3月は48床で算出している。

(6) 経営指標

項 目	長崎みなとメディカルセンター 市民病院				長崎みなとメディカルセンター 成人病センター			
	25年度 実績値	26年度 目標値	26年度 実績値	達成率 (%)	25年度 実績値	26年度 目標値	26年度 実績値	達成率 (%)
総収支比率(%)	94.9	100.1	89.8	89.7	97.2	90.2	83.4	92.5
経常収支比率(%)	96.3	100.2	94.8	94.6	97.3	90.3	84.2	93.2
医業収支比率(%)	85.6	95.8	91.3	95.3	83.1	81.2	73.2	90.1
給与費比率(%)	61.2	54.7	57.5	95.1	67.3	69.0	79.4	86.9
	59.4	52.0	55.7	93.4	64.3	65.2	74.5	87.5
材料費比率(%)	25.1	21.5	23.0	93.5	24.4	25.5	23.5	108.5
経費比率(%)	18.6	15.2	16.5	92.1	21.6	22.8	26.6	85.7

※ 給与費比率は、上段に退職手当負担金及び退職給付費用を含んだ比率を、下段にそれらを除いた比率を記載している。

【参考】中期計画・年度計画記載の実績値（計画に記載の順序）

1 長崎みなとメディカルセンター 市民病院

指 標		24年度 実績値	25年度 実績値	26年度 実績値	
高度医療	がんに関する相談人数(人)	641	662	744	
	緩和ケア チーム活 動	カンファレンス・回診(回)	45	51	47
		院内研修(回)	11	4	3
	がん手術件数(件)	673	608	586	
	急性心筋梗塞手術件数(件)	102	129	140	
	放射線治療件数(件)	5,664	4,402	6,131	
	化学療法件数(件)	1,668	1,385	1,652	
地域医療連携	地域医療講演会開催回数(回)	16	15	12	
	地域医療講演会参加人数(人)	628	713	698	
	医療福祉相談件数(件)	2,611	2,775	2,883	
	開放型病床利用病床率(%)	9.2	3.9	0.5	
	開放型病床への登録医師数(人)	139	142	143	
	あじさいネット年度末累計値(※平成21年11月からの累計値)				
	登録施設数(施設)	54	69	86	
	登録人数(人)	1,083	1,582	2,257	
紹介数(人)	587	831	1,193		
アクセス件数(件)	11,389	15,484	31,403		
医療安全	医療安全委員会開催回数(回)	12	12	12	
	医療安全研修実施回数(回)	17	14	20	
	薬剤管理指導件数(件)	1,623	4,384	4,927	
対策	感染防止対策委員会開催回数(回)	12	12	12	
	感染防止対策研修の研修実施回数(回)	6	21	53	
災害 拠点	災害訓練の実施回数	年1回	年1回	年1回	
	長崎DMA Tチーム数	2チーム	2チーム	1チーム	
の医療 外国人へ	外国人患者数(人)	入院	5	4	8
		外来	6	15	29
	(参考)外国人延べ宿泊者数(人)(暦年)	128,519	178,560	212,524	

※外国人延べ宿泊者数・・・長崎市文化観光部「観光統計」より

指 標		24 年度 実績値	25 年度 実績値	26 年度 実績値
情報発信	情報誌発行回数(回)	12	12	12
	患者・家族向け(院内)	6	7	7
	住民・医療機関向け(院外)	6	5	5
	ロビーコンサート等の開催回数(回)	8	11	3
患者サービス	患者サービスに係る委員会の開催回数	12	12	12
	病院機能評価認定(更新)	維持	維持	認定更新
	接遇研修開催回数(回)	6	7	2
	ボランティア登録数(人)	8	17	15
適正配置	看護職員数(2病院合計)	387	441	511
	医療技術員数(2病院合計)	94	122	142
	医師事務作業補助者数(2病院合計)	32	33	31
	初期研修医受入数(2病院合計)	8	10	13
研究	治験実施件数(件)	8	12	9
	製造販売後調査件数(件)	25	9	15
	臨床研究件数(件)	21	15	30
	学会発表件数(件)(暦年)	130	149	163
	論文件数(件)(暦年)	51	43	44
研修	認定看護師資格取得支援人数累計(人)	7	7	10
公開	診療録開示件数(件)	38	31	30
事務部門	事務職員数(正規職員(再任用職員を含む。)数)	45	43	40
	現業職員数(正規職員(再任用職員を含む。)数)	1	0	0

※適正配置及び事務部門欄における実績値は3月31日現在の2病院の合計数値を記載

2 長崎みなとメディカルセンター 成人病センター

指 標		24 年度 実績値	25 年度 実績値	26 年度 実績値	
医療	開心術件数(件)	0	0	0	
医療安全	医療安全委員会開催回数(回)	12	12	12	
	医療安全研修実施回数(回)	2	2	2	
	薬剤管理指導件数(件)	371	316	716	
対策 感染	感染防止対策委員会開催回数(回)	12	12	12	
	感染防止対策研修の研修実施回数(回)	2	2	3	
結核・感染症医療	感染症患者数(人)	入院	0	0	0
	結核患者数(人)	入院	3,483	2,805	3,227
		1日最大入院患者数	13	10	19
		1日最大排菌患者数	11	9	19
	透析患者数(人)	入院	3,768	3,694	3,370
外来		11,628	11,119	11,465	
情報発信	情報誌発行回数(回)		10	13	13
		患者・家族向け(院内)	9	12	12
		住民・医療機関向け(院外)	1	1	1
	ロビーコンサート等の開催回数(回)		2	2	3
患者サービス	患者サービス検討委員会開催回数		12	12	12
	接遇研修開催回数(回)		1	1	1
	ボランティア登録数(人)		4	3	3
研究	治験実施件数(件)		0	1	0
	製造販売後調査件数(件)		7	0	0
	臨床研究件数(件)		4	1	0
研修	認定看護師資格取得支援人数累計(人)		1	1	1
公開	診療録開示件数(件)		1	4	3